

生田緑地におけるタイショウオオキノコ *Episcapha morawitzi* (Solsky, 1871) の記録

横田光邦*・三田村瞬*

A record of *Episcapha morawitzi* (Solsky, 1871) in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City.

Mitsukuni Yokota* and Shun Mitamura*

はじめに

タイショウオオキノコ *Episcapha morawitzi* (Solsky, 1871) は、北海道から九州まで広範囲に分布するものの、稀である(黒澤ほか, 1985)。神奈川県内では今まで記録がなかった(平野ほか, 2018)。インターネット情報によると、本種の記録が2024年7月に厚木市にて見られるようになった(hydraenids, 2024)。生田緑地における秋季の夜間調査において、本種を確認したので報告する。

採集記録

[多摩区] 10exs., 多摩区枳形, 26-X-2024, 横田光邦・三田村瞬採集

筆者らは夜間の昆虫調査を行っていたところ、22時頃に生田緑地内の七草峠付近に置かれている伐採木に、多数のタイショウオオキノコが集まっていることを見つけ、その一部を採集した。樹種はサクラと考えられ、そこに発生しているカワラタケの一種と思われる腐朽菌を摂食しているようであった(図1)。

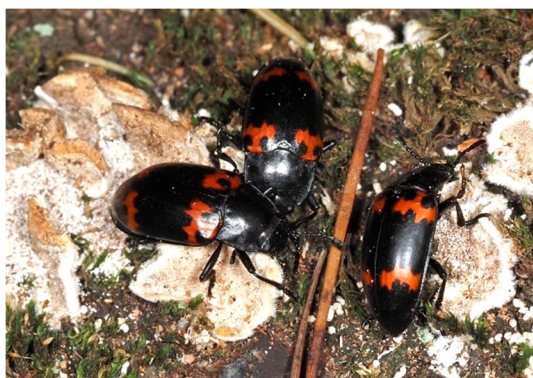


図1. カワラタケの一種に集まるタイショウオオキノコ

おわりに

生田緑地内のサクラ(主にソメイヨシノ)が古木となり、枯死している木が増え、そこには腐朽菌が多く見られるため、餌環境と

しては良くなったことが考えられる。本種はハカワラタケ *Trichaptum biforme* (Fr.) Ryvarden などのサルノコシカケ科 Polyporaceae の腐朽菌を食べることが知られている(鈴木, 2011)。ナラ枯れによる腐朽菌の増加もタイショウオオキノコが増えていることと関係しているかもしれない。

なお、以前より生田緑地内で生息が確認されていたヒメオビオオキノコ *Episcapha fortunei fortunei* Crotch, 1873 も増加していて、2024年4月20の夜間観察時には枳形山広場にあるソメイヨシノの枯木で多数の成虫が見られた(図2)。



図2. 枳形山広場のヒメオビオオキノコ

生田緑地内ではゴミムシダマシ科 Tenebrionidae のルリゴミムシダマシ *Derosphaerus subviolaceus* (Motschulsky, 1860) やサトユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes valgipes* (Marseul, 1876) も増加しており、これらも枯木が増えたことによる腐朽菌の増加が影響しているようである。

なお、本稿の和名および学名は、鈴木(2024)に従った。

引用文献

黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之, 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ). 514 pp., 保育社, 大阪.

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

平野幸彦・秋山秀雄・松原 豊・守屋博文・
西川正明・野津 裕・高橋和弘・滝沢春雄・
露木繁雄・渡辺 崇, 2018. コウチュウ目.
pp. 227–639, *In*: 神奈川県昆虫誌 2018 II.
639 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
鈴木知之, 2011. 朽ち木にあつまる虫ハン
ドブック. 88 pp., 文一総合出版, 東京.

インターネット情報

鈴木茂, online. 日本列島の甲虫全種目録
(2024 年). 2024. [https://japanesebeetles.
jimdofree.com/](https://japanesebeetles.jimdofree.com/) (accessed on 2024-December
-27).
hydraenids, online. ナラ枯れで増えた昆虫—
厚木市の里山にて—. 2024.
<https://note.com/hydraenids/n/nf08ebf90e2ef>
(accessed on 2024-December-27).